

笑顔が集う、しあわせ運ぶマルシェ



株式会社モルタン



MOLTAN countdown market

企業概要



代表取締役
川村 朋之氏

所在地 (本社)三重県三重郡川越町高松595
(名古屋事務所)愛知県名古屋市西区名駅二丁目34番17号
セントラル名古屋1101号
TEL:(名古屋事務所)052-766-5775 FAX:052-766-6315

設立 2011年(平成23年)5月

資本金 300万円

従業員数 4名(2022年8月現在)

事業内容 マルシェ運営事業、催事運営仲介事業、販売事業、飲食事業、ベトナム関連事業

URL <https://moltan.jp/>

「出店者さんも楽しめる」を「コンセプト」に、
イベントをゼロから企画運営

三世代で楽しめる イベントを開催

株式会社モルタンは三重県川越町に拠点を置く、マルシェ(青空市)やイベントの企画運営、催事出店の仲介を行う会社である。訪れる客はもとより「出店者も楽しめる」をコンセプトに、小さな子どもから高齢者まで三世代が楽しめるイベントを各地で開催している。

近年は百貨店や大型商業施設等の催事・テナント運営事業に力を入れ、「人や社会、地域、環境などに優しいモノをテーマにハ



カルチャービレッジマルシェ

ンドメイドアクセサリ等を販売するエシカル(倫理的)マーケット、人気作家の商品を二区画に集結させた店舗などが好評を得ている。

情報ポータルサイトで 地域とつながる

代表取締役の川村朋之氏は川越町に生まれ育ったが、地域の活気や賑わいに物足りなさを感じていたという。ウェブ関係の仕事に就いていた社長は「地元には知られてない魅力的な場所やモノがたくさんあるはず」と考え、休日を利用して三重県内の観光スポットや飲食店、ホテルなどを一人で回り、情報を集めた。そして、2011年に当時まだ珍しかった三重県の情報発信ポータルサイト「みえナビモルタン」を立ち上げる。「モルタン」とはイタリア語で「非常に、とても」を意味するモルト(Moort)と「大量、たくさん」を意味するタント(Tanto)を合わせた造語



企業ブース運営

店舗管理は社員に権限を与え、運営を任せているが、「責任は自分(社長)が取る」と明言する

三方よしの事業運営

川村社長が出店する作家を選定する際、大切にしているのが、自分の感性を「疑う」ことだ。「見して万人受けしないと感ずる作品でも店舗に置いてみると意外にも好評なことがある。自分の感性に頼らない商品展開が予想を上回る売上の達成につながっている。

川村社長は「来場者、出店者、地域すべてに利益があることが大事」と話す。来場者は質の高い商品に出会えることに満足し、出店者は集客力の高い店舗やイベントで商品を販売することができ、出店者のSNSを通じてイベントを知った人が来場して、その口コミがさらに人を呼ぶという好循環ができていく。人々の交流が盛んになれば、地域に活気が生まれる。そして、イベントが盛り上がり、スタッフも楽しく働ける。

地域を支援する取り組み

同社はSDGsの取り組みにも力を注ぐ。大型商業施設での

その後、地域活性化に資する取り組みを支援する県主導の事業に参画する機会が訪れる。それをきっかけに川越町と連携し、「川越町にたくさんの人を呼ぼう」という目的のもと、13年11月に川越町の近鉄川越富洲原駅前広場で飲食店・雑貨店などを集めた青空市「川越マルシェ」を開催。当時はマルシェ自体が認知されておらず、確立した運営ノウハウもなかった。川村社長はさまざまな苦難に直面しながらも、第二回川越マルシェには多くの人が集まった。19年には株式会社モルタンに法人成りする。



川越マルシェ

今年で川越マルシェは9年目を迎える、1万人もの人が訪れる巨大マルシェへと成長した。ここ数年はコロナ禍により開催を見送っているが、多くの人が再開を待ち望んでいる。マルシェを運営する上で心がけていることは4つある。二つ目は出店者目線の運営。出店者自らが運営側に入ることによって出店しやすい運営に向けた改善見直しをはかっている。二つ目は安全の確保。強風や突風により出店者のテントが転倒したり飛ばされたりという事故を防ぐため、風を遮るものが何もない場所では屋外イベントは行わないようにするなど開催環境に配慮し、事故やトラブルなど未

大型商業施設で作家作品を販売

川村社長が今、力を入れてるのが百貨店やショッピングモールへのテナント出店である。22年7月、名古屋市にあるイオンモール「moozowonderシティー」1階にアクセサリ、雑貨、スイーツをメインとした店舗「countdown market(カウントダウンマーケット)」を出店。コンセプトは「毎日ワクワクするお店」で、店舗で取り扱う作家の商品



countdown market 店内

然に防いでいる。三つ目はイベントの質向上。志の高い出店者を集めるために出店費用を他社より高く設定し、その分を宣伝広告費に回し、来場者数アップに努めている。四つ目は出店者同士の協力。出店者が別の出店者の商品を来場者に勧めるといふルールを設けている。関係者以外から勧められたものには興味を持ちやすいという購買者の心理をよくつかんでいる。結果、出店者には競争心ではなく連帯感が生まれ、マルシェ全体の雰囲気向上にもつながっているという。

催事「エシカルマーケット」では地元作家の作品を中心に販売して人気作家の発掘に貢献するほか、地域を越えた支援にも目を向け、その売上の一部を発展後進国や少数民族の伝統手仕事の保護に充てている。

支店より一言

文〓会員事業部 鈴木理可

20年には川越町、朝日町、朝明商工会、同社の4者が「災害時及び緊急時における飲食物の提供協力に関する協定」を締結した。これは、災害発生時や感染症拡大等の緊急時に各自治体からの炊出しや飲食物提供の依頼を受け、町内で炊出しやキッチンカーの出動などを行うもので、町民に温かい食事を提供することが可能となった。住民だけでなく、営業自粛に苦しむ飲食店やキッチンカーの救援にもなっている。

次のアクションに向けて

今後は「大型商業施設のテナント運営や催事出店仲介、企画運営事業に力を入れていく」といい、現在も数多くのショッピングモールから出店依頼がきている。「青空の下でスタートして、今で



百五銀行 富田支店長 土肥 良圭

社名の由来(本文中)をお聞きし、発想力や行動力に富んだ川村社長らしいと感じたのが第一印象でした。これまで培ってきたノウハウを活かし、時には自治体とも連携して、地域の住民が楽しめるだけでなく、そこに参加される事業者も潤うWin-Winなモデルを追求される姿勢は、我々も見習う点があります。地域活性化の架け橋となる企業として、今後も益々活躍されることを期待しております。